

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎市中央療育センター		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年3月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年3月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年3月15日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3施設	(回答数) 3施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による訪問支援	・対象となるお子さんを検討する段階で、個別担当の各専門職が集まって支援の必要性の有無や内容を検討している。 ・各専門職が必ず1回以上訪問する。	・コアとなる訪問支援員と専門職等がセットで訪問を実施することで、訪問先機関の担当者との顔の見える関係を築きつつ、より専門的な支援の提供を行う。
2	多角的な視点によるアセスメントの実施	・各専門職からの意見を参考にしながらアセスメントを実施している。	・訪問先機関の状況を鑑みたくえて、対象児童のアセスメントと実際の支援内容の検討ができるとよい。
3	適切な支援の提供	・適切な支援提供のためのシステムやツールが準備されており、必要な情報共有が職員間で行われている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援としての地域への発信	・センターが実施している他の訪問支援事業（個別訪問、機関支援など）がすでに実施されているため、保育所等訪問支援の必要性が周知されづらい。	・今後、保育所等訪問支援を実施していく中で、他の訪問支援との内容の違いなどを丁寧にお伝えしていく。
2	多職種による訪問支援	・各職員が、それぞれの業務と兼任しているため、頻度として多く実施しづらい状況。	・実際の訪問だけでなく、電話等による聞き取りや状況確認なども取り入れ、支援を継続・充実させていく。
3			